

V 関西六大学準硬式野球連盟 新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

令和3年10月4日

関西六大学準硬式野球連盟

【はじめに】

関西六大学準硬式野球連盟は、令和3年度秋季リーグ戦を開催するにあたり、首記のガイドラインを策定し、新型コロナウイルスの感染防止に細心の注意を払うとともに、各加盟校は十分な対策を講じたうえで試合に臨み、感染防止を図るものとする。また、本ガイドラインの内容は今後も新型コロナウイルス感染症の動向や、政府・自治体の対処方針の改定等を踏まえ、適宜見直しを行うこととする。

【新型コロナウイルス感染予防対策】

I. 共通感染予防対策

球場に来場する全ての関係者（指導者・部員・連盟役員・審判員等）は、以下の感染予防対策に徹することとする。

① 毎日の健康チェック

- ・当該試合予定日の2週間前から連盟所定の[体調管理チェックシート](#)に各自の健康状況を記入し、試合当日に持参する。各校代表者がまとめてシートを連盟委員に提出し、連盟委員が内容を確認し返却する。
- ・体調管理チェックシートのチェック項目①～③の新型コロナウイルス感染が疑われる症状に該当するものがそれぞれで3つ以上ある者、あるいは試合当日のチェック項目①～③のどれか1つでも該当する者は入場できないものとする。体調管理チェックシートのチェック項目④の感染者との濃厚接触があった者は入場不可とし、2週間の自宅待機とする。

② 手指衛生の励行

- ・消毒用アルコール剤や流水・石鹸等による手洗い等で手指衛生に努める。

③ 出来る限り人混みを避ける

- ・3密（密閉空間・密集場所・密接場面）を避ける。やむを得ず人混みに入る場合はマスクを着用する。
- ・不要不急の外出、外食を控える。
- ・できるだけ2m、最低1mの安全距離を確保する。

II. 試合当日の感染予防対策

① 移動時

- ・球場への移動時は原則マスクを着用する。
- ・公共交通機関を利用する場合、
 - (ア) 極力つり革等を持たない。
 - (イ) 同じ車両に固まらず、可能な限り分散して乗車する。

(ウ) 可能な限り他者との間隔をあげ、安全距離を保つ。

② 検温

- ・ 球場に来場するすべての関係者（指導者・部員・連盟役員・審判員等）は起床後・入場時に検温を行う。
- ・ 検温は連盟委員及び各大学の代表者が担当し、体温が 37.5℃以上ある者は入場できないこととする。

③ 更衣

- ・ ロッカールームやシャワーの使用を禁止し、更衣はスタンドで済ませる。
- ・ 更衣中は会話を避け、迅速に更衣を済ませる。

④ 観客

- ・ 第4節、第5節を有観客試合とする。ベンチ入りメンバー以外の野球部員・応援団・選手の親族および友人・チームOB・顧問OB(野球部長経験者)の入場を認める。一般の方々の入場は認めない。
- ・ 球場出入口は各球場の中央入口の1箇所のみとする。部員と控え部員との導線を分ける。控え部員はベンチやその周辺に行かずスタンドに向かう。
- ・ 来場される観客に対しては、試合当日に中央入口にて検温（37.5℃以下）を行い、氏名・電話番号の記入をして頂くこととする。
- ・ 上記に加え、チームOBは卒業年の記入、親族・友人は現役選手の氏名および彼らとの間柄を記入していただくこととする。これらの条件を満たさなかった場合、入場をお断りする。
- ・ チーム関係者は入場の際に必ず[体調管理チェックシート](#)を提出することとし、未提出の者は入場不可とする。
- ・ 各校スポーツ局などの広報団体は3人までと制限、且つ本ガイドラインに記載する感染予防対策を講じたうえで来場可とする。
- ・ 控え部員および観客は入場の際にマスクの着用・検温の実施・消毒液による手指消毒をし、必ず左右2席、前後1席の間隔をあけて着席する。その際、不要な声出しは控えること。
- ・ 上記の条項が順守されるよう、学生委員は適宜観客席を巡回する。
- ・ 応援団については、ブラスバンド、チアリーディングを含め、これを許可する。応援時は左右各2座席程度（2m程度）、前後座席1席を空けて応援する。なおチアリーディング時に熱中症予防の観点からマスクを着用しない場合は、左右各3席以上空けることが望ましい。
- ・ 飛沫感染予防のため、グラウンドを向いて演奏を行うこと。ただし各大学、各応援団の観戦防止ガイドラインがある場合はこれを優先する。

試合前

- ・ 試合会場周辺でのアップの際は、大声を出さない。
- ・ 次の試合の出場校は、各球場の指定場所で間隔をあけて待機する。
- ・ 試合前のミーティングは球場周辺の広い場所で行い、間隔をとって必ずマスクを着用す

る。

⑤ 試合中

- ・試合中、ベンチにいる監督・コーチ・部長・副部長・マネージャーは原則マスクを着用する。
- ・試合中の選手のマスクの着用については、選手・審判員の判断とするが、ベンチ内にいる時はマスクの着用を推奨する。ただし、熱中症予防に配慮すること。
- ・**審判員（塁審）は試合中必ずマスクを着用する。ただし、主審は熱中症予防の観点からもマスクの着用は義務付けない。**
- ・手指衛生に努めたうえで、共用物品の使用を可能な限り控え、共用物品についてはアルコール等で消毒する。
- ・ベンチ内においては、できるだけ選手同士の間隔をとり、可能な限り接触を避ける。
- ・試合前やイニング間の円陣、その際の声出しは可能な限り選手同士で間隔をとり、最短時間で済ませる。
- ・素手でのハイタッチや握手等は控える。
- ・ボールを触った手で目・口・鼻に触れない。
- ・守備のタイムでマウンドに集まる際はグラブで口を覆い、できるだけ選手・監督との距離をとる。
- ・試合用ロジンバッグは両チームで別の物を使用する。
- ・9回終了時で同点の場合は延長戦を行わず、引き分けとする。

⑥ 試合後

- ・ベンチ使用後は、鉄柵・椅子・ドアノブ・バットケースなどを噴射式の消毒液で使用したチームが消毒を行い、次のチームに引き継ぐこと（使用する消毒液は連盟で用意する）。
- ・試合後のミーティングは球場周辺の広い場所で行い、間隔をとって必ずマスクを着用する。

⑦ その他

- ・**開会式及び閉会式は行わないものとする。**
- ・球場出入り口・1,3塁ベンチ内・本部室・役員室・記者室・審判控室・放送室にアルコール消毒を設置する。
- ・本部室・役員室・記者室・審判控室・放送室等、使用する室内施設の換気を徹底する。自然換気が難しい場合は機械換気を行う。

【感染者・濃厚接触者が発生した時の対応】

- ・リーグ戦には健康が確認された選手だけが出場できることとする。感染者および濃厚接触者が出た場合は、当該部員については下記の対応とし、各大学は感染していない部員で引き続きリーグ戦に参加できるものとする。
- ・チーム内に体調不良者が医務機関から新型コロナウイルスに感染の疑いがあると診

断された場合、チーム代表者は大学および連盟に報告すること。

- ・チーム関係者は検査結果を大学および連盟に報告し、保健所の指示、指導に従い陽性者には隔離、濃厚接触者（濃厚接触の可能性のある者を含む）には2週間の自宅待機の措置を行うものとする。

※濃厚接触者の定義は以下の通りである。

患者（確定例）の感染可能期間（コロナウイルス感染症を疑う症状を呈した2日前から隔離開始までの期間）に接触した者のうち、

- ・患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等）があった者
- ・適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護もしくは介護していた者
- ・患者（確定例）の気道分泌物もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・その他：手で触れることのできる距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策無しで、患者（確定例）と15分以上の接触があった者に該当する者である。

【熱中症対策】

- ・熱中症予防にも十分配慮することとし、適宜水分補給を行うが、各自のペットボトルや使い捨て紙コップなどを用意し、飲みまわしなどを行わない。
- ・試合中に限り、選手は体力消耗の観点からマスクは着用しなくても良いこととする。

【その他】

- ・なお、本ガイドラインに記載されていない事象が発生した場合、連盟が協議の上対応する。

以上